

## 「いじめへの**対応力**を高める校内研修」手順書

《資料內容》 4 枚

- |   |            |   |     |  |
|---|------------|---|-----|--|
| ア | 手順書（本紙）    | ウ | 資料1 | 「各検討項目の留意点」                                  |
| イ | 別紙「現況のまとめ」 | エ | 資料2 | 表「いじめ事案の初期判断のためのフローチャート」<br>裏「初期判断と支援の方向性の例」 |

### 【事前準備】

**別紙**「現況のまとめ」を読んで、いじめを深刻化させる三つのキーワードに該当する内容に下線を引いておく。

→資料1【I. 深刻化のリスク】を参照

いじめ深刻化の 3つのキーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>①行為の反復性：一定期間、繰り返されている行為または一方向的な関係性</li> <li>②アンバランスパワー：一方的に弱い立場にしている力関係の不均衡さ</li> <li>③シンキングエラー：被害的な立場にある子の人権が侵害されていることが正当化されてしまう間違った考えや認識</li> </ul>
---------------------	--

## 【当日の流れ】

## 1. 導入…研修のねらいと事例ワークの説明

### (1) 研修のねらい

いじめの架空事例を用いたグループでの事例ワークを通して、

- いじめの「深刻化のリスク」を共通理解し、対応のための判断について合意形成を体験する。
- いじめ事案に対する緊急的介入及び中・長期的な支援を検討することで、組織的対応の意識を高める。

## (2) 研修のポイント

- ① いじめ深刻化の三つのキーワード **資料1** 【I. 深刻化のリスク】
- ② いじめ判断の三つのポイント **資料2表：上部** 【判断の3観点とポイント】
- ③ いじめ対応のための判断 **資料2表：下部** 【初期判断のフローチャート】

### (3) ワークの流れと内容

#### (4) ワークにおける留意点

## 2. 実践…事例ワークの実施

(1) 事実確認別紙

(2) I 深刻化のリスク資料1

(3) II 対応のための判断資料2

(4) III 対応方針資料 1

### 3. まとめ…グループでの振り返り（一人1分程度で伝え合う）

この研修に参加（事例ワークを体験）して、学んだこと、今後の教育活動に生かしたいことは何ですか。